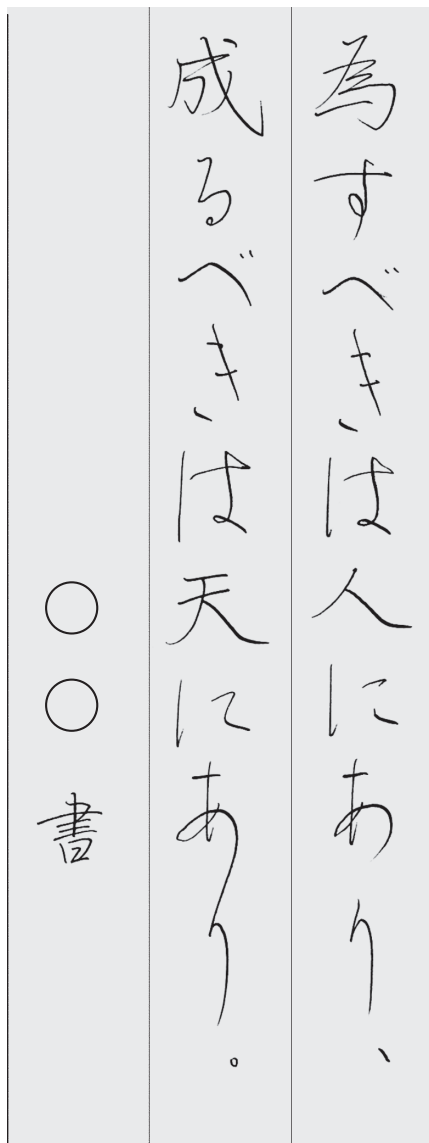


憲照先生の手本ア・ラ・カルト (26)
(à la carte)

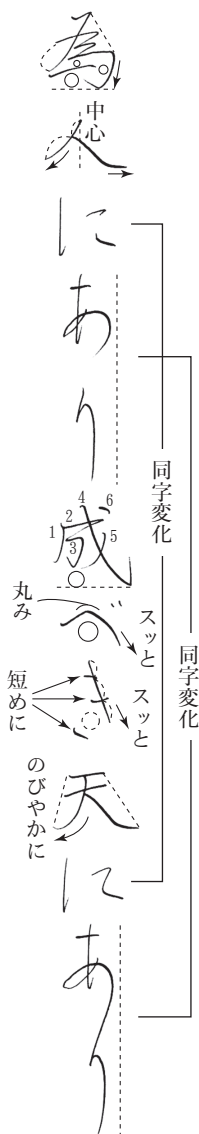
締切り 二月二十一日 (必着)

昭和48年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中は、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★為すべきは… (書体Ⅱ行書)

杉田玄白 (一七三三〜一八一七)

江戸時代の蘭学医

努力は、人がしないといけない事柄です。でも結果は、人の及ばないところ、すなわち天が決めます。そして結果は天が形成します。

ですから、結果を出そうと努力して、できる限りのことをした後なら結果を天に託して、後は待つしかないのです。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

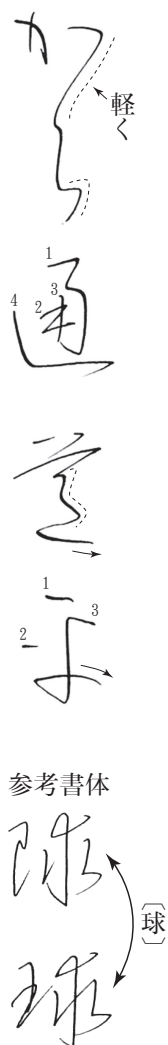
一般部規定課題

締切り 2月21日(必着)

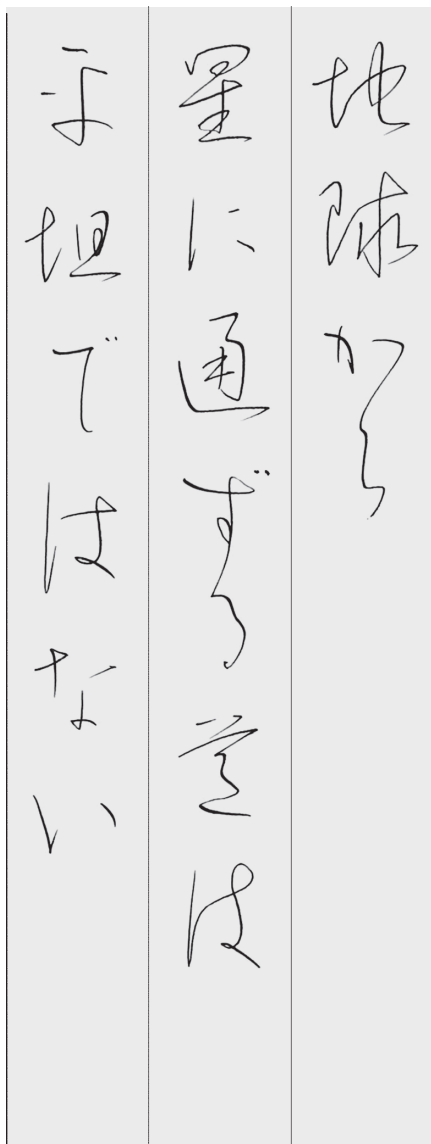
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

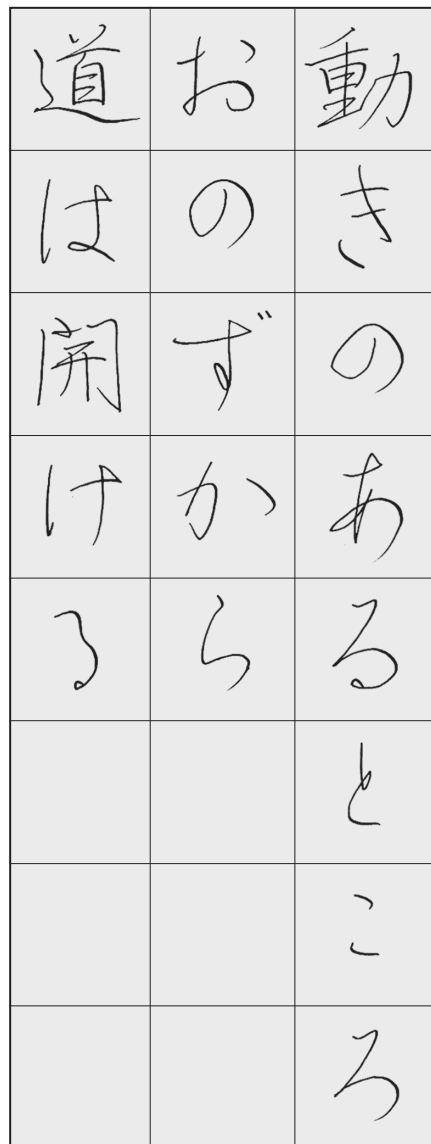


新井龍峰書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆教範・書範Ⅱ楷書
▼師範Ⅱ行草または草書

君子は
交わり絶ゆるも
悪声を出ださず

◆3月課題予告（行書）

★地球から…（書体Ⅱ行草または草書）
セネカ（前四〇六五）
ローマの哲学者
二千年前の哲学者セネカは、その時
すでに宇宙旅行を考えていたのだろう
か。いたとすれば、これこそ実に驚く
べき遠眼といわなければならぬ。こ
れが空想であるとしても、セネカの頭
脳に感服せずにはいられないのではな
いか。

◆3月課題予告（楷書）
忠言 耳に
逆らえども
行いに利あり

★動きの…（書体Ⅱ行書）
尾関宗園（一九三一 奈良県生まれ）
あれこれ迷って、人生の回転が止
まった状態ではいられないので即、動
き出して一つのこと専心すれば、心
の動揺がおさまリ、自然に見通しも明
るくなってくるというのである。
よく味わって自分のものになりたい言
葉。

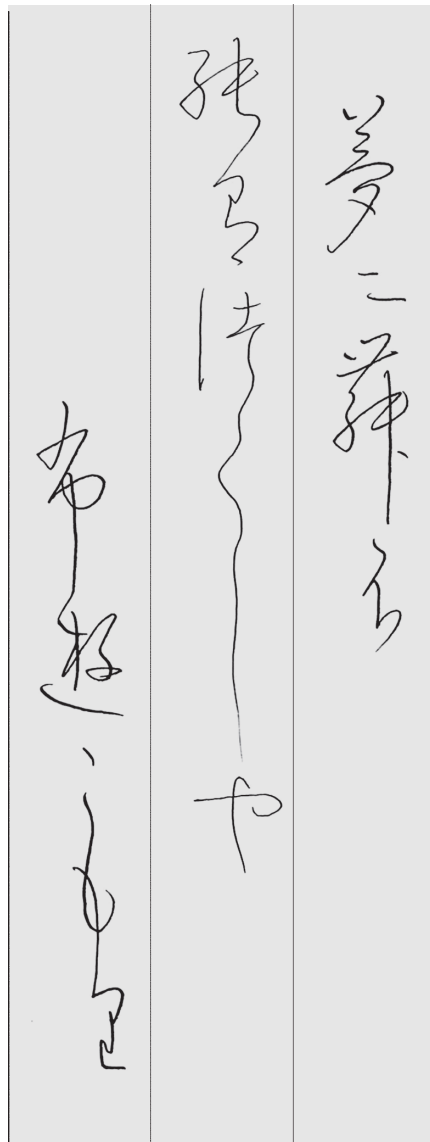
一般部かな課題

締切り 2月21日(必着)

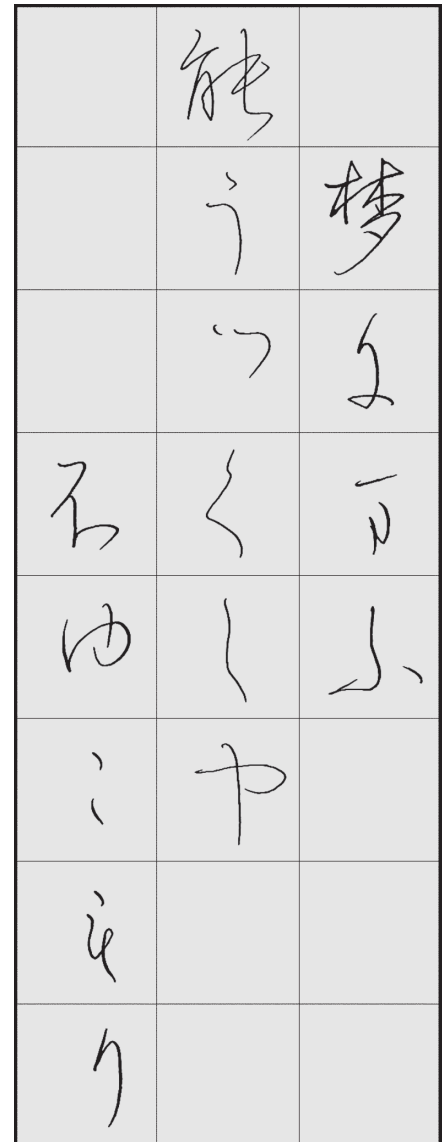
準初段から六段まで

新入から1級まで

夢に舞ふ能美しや冬籠



夢に舞ふ能美しや冬籠



■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告

女身仏に春剝落のつづきをり

(細見綾子)

〔解説〕マス目の方は、難しいですが、マス目から出ないで、連綿を感じさせるように書いて下さい。

毛 布 徒 有 尔
も ふ っ う に
も ふ っ う に
も ふ っ う に
も ふ っ う に

〔古筆参考〕

夢に舞ふ能美しや冬籠 (松本たかし)
〔句解〕ある夜、私は能舞台に立って一さし舞う夢を見た。我ながら、それは美しく、その中に陶醉しきっていたが、ふと夢は覚め、たちまち冬籠りの現実にかえったのだった。
〔鑑賞〕たかしの父長は、能役者として名人といわれた人。たかしも六歳の時から、家元宝生九郎の薫陶を受け、九歳で初舞台をつとめた。十五歳病のため能を断念するにいたるのだが、伝統の家の長子として、舞台への未練は想像以上のものが、あったろう。それが、この幽艶な一句を生んだのだ。

締切り 2月21日(必着)

ほころび始めた梅のつぼみに春の兆しを感じられる頃となりました。障子越しに差し込む光も明るくなり、縁側の日だまりで猫も大きく伸びをしています。でも、これから寒のもどりも。ご自愛ご専一に。

ほころび始めた梅のつぼみに春の兆しを感じられる頃となりました。障子越しに差し込む光も明るくなり、縁側の日だまりで猫も大きく伸びをしています。でも、これから寒のもどりも。ご自愛ご専一に。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

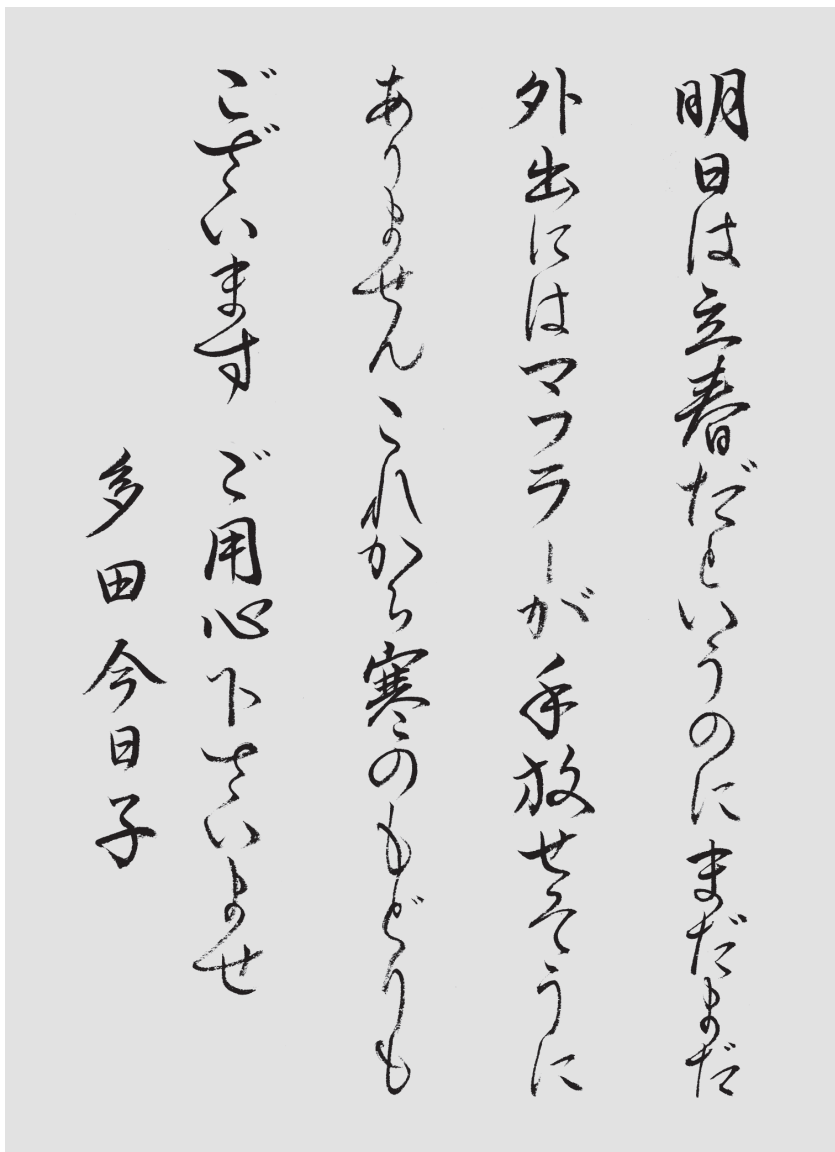
美味で栄養価の高いカキの養殖は、古くはローマ時代に記録がある。

岡山県津山市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

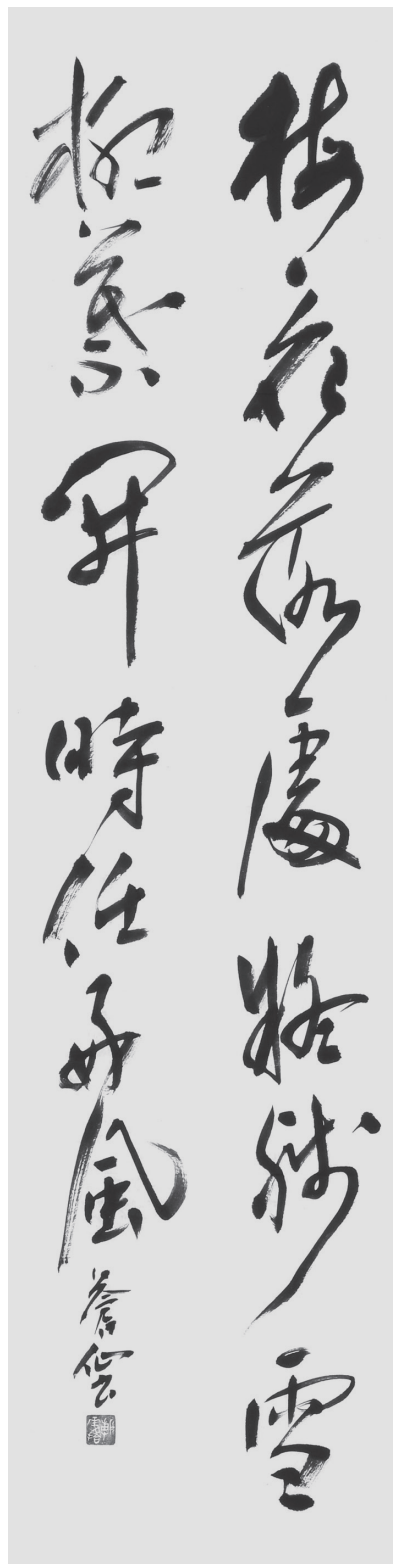
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



梅花落處疑殘雪

柳葉開時任好風

杜審言

締切り 二月二十一日 (必着)

半切 (一二六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙書

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つきしました。

(ご自分の氏名)

明日は立春だというのにまだまだ
外出にはマフラーが手放せそうに
ありません。これから寒のもどりも
ございます。ご用心下さいませ

〔条幅解説〕
起筆には多様な方法があります。それによって生まれる線も多様で、作品の価値も多様です。お互いにその辺りを、実技を見る事によって勉強し、実力をつけましょう。

〔大意〕梅の花が散った所は残雪がのこるかも疑われ、柳の葉は好風にまかせて美しく伸びる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

澤

幸
寿
書

梅花萬里外

梅花萬里の外にあり

〔大意〕梅の花は万里の遠くに在るというのに美しく咲き乱れる。

〔解説〕

梅花萬里外

◆3月課題予告(楷書)

春來物
色鮮

準初段から師範まで

須田一葉 臨

在春宮
述三蔵

在
春
宮
述
三
蔵

在春宮述三蔵

〔出典〕 集字聖教序（六七二）

〔筆者〕 王羲之の法書より集字

〔読み〕 春宮に在りて述べるの三蔵

（聖記）

〔解説〕

在春

宮述

三蔵

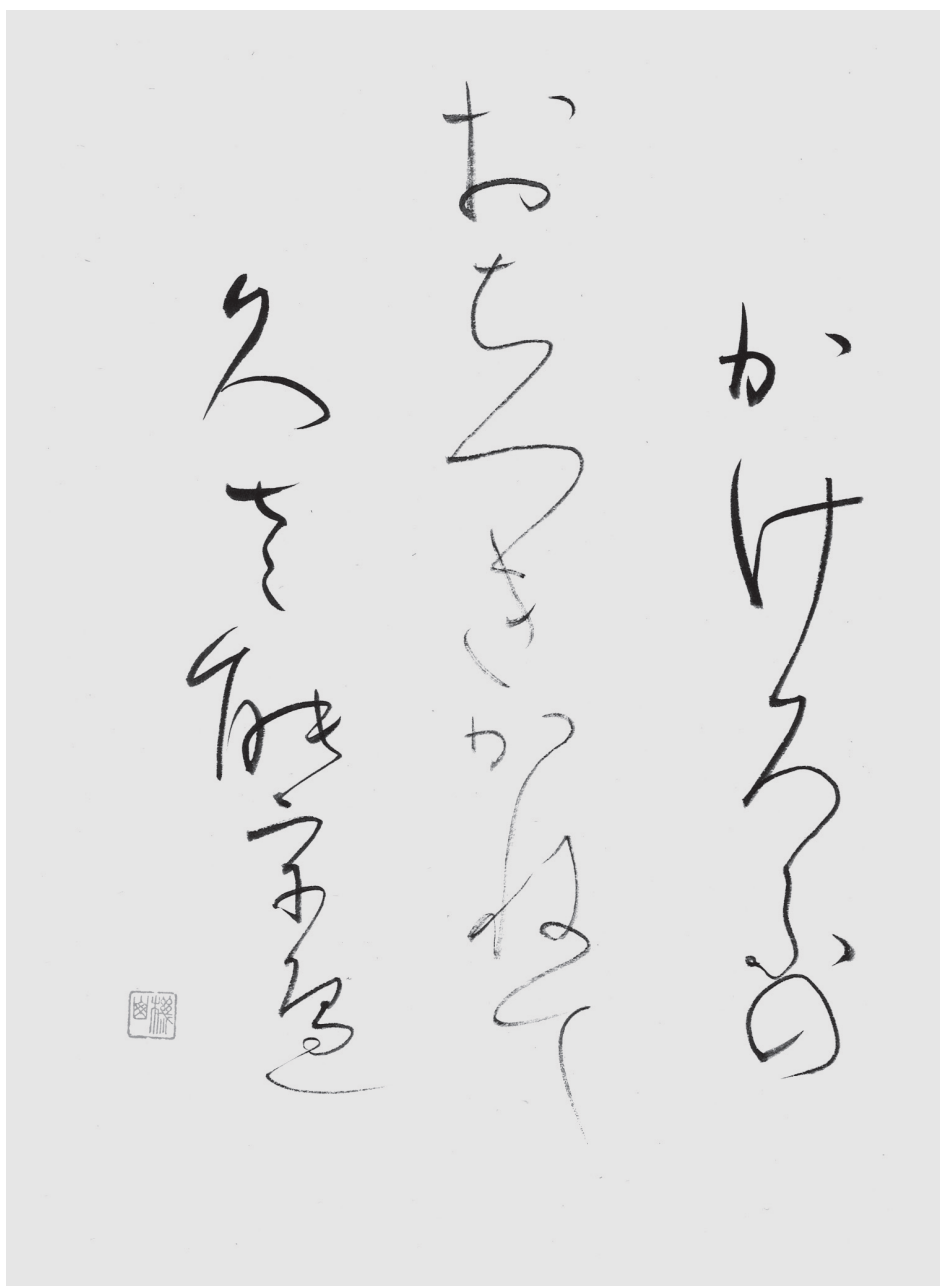
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆3月課題予告

在春宮述三蔵

新入から1級まで

浅井機山先生書



陽炎^{かげろふ}の落ち^おつきかねて^{久左能}草^{宇邊}の上

夏目漱石

〔句意〕

春の温かい日光を受けて、草の上に陽炎がゆらゆらと立ち昇っている、の意。ゆらゆらと動くさまを「落ちつきかねて」と表現したのである。

◆3月課題予告

四方^{しほう}より花吹入^{はなふきいれ}て鴉^{にほ}の海^{うみ}

〔解説〕

まず全体をみると、

第1行の書き出しは、上の余白を取って、行の下にも余白を取っています。

第2行の書き出しは、上の方からほとんど余白を取らず、行尾はやや余白を取って余裕があります。

第3行の書き出しは、第1行よりわずかに高くしていますが、行尾の位置も第1行の「の」よりわずかに下がっています。雅印はいい位置に押して下さい。

全体には、紙面の下がやや余白が多いという感じです。

それでは、1行ずつ見ていきます。

「かげろふの」

この行では、「か」と「け」の「間」を見ていきます。「か」と「け」の「間」は広く、「ふ」と「の」の間はありません。後者は字が切れているにもかかわらず、接しているという感じです。

「おちつきかねて」

「お」と「ち」の「間」は第1行「かけ」より狭く、「き」と「か」の間は、それよりやや狭い感じです。

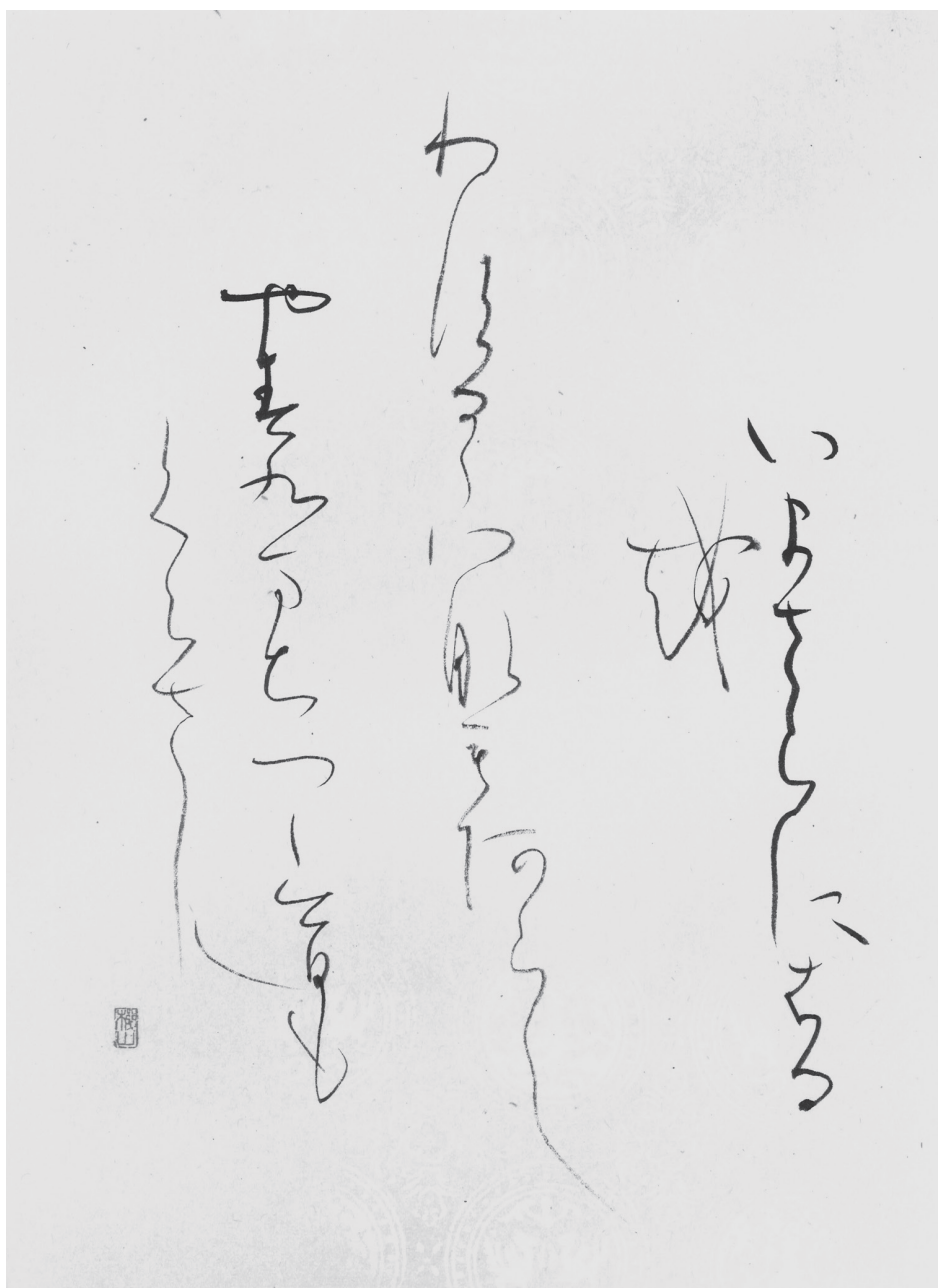
「久左能宇邊」

「さ」と「能」の「間」は「久」と「左」の間より狭いの、「能」の字形の右上があいているので間が広く感じられることです。だから、実際は狭いの、目の錯覚で逆に見えることがあります。

「間」の粗密により動きが出てきます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



いまさらいまに春春を越わ須を忘るる花ハ那毛阿もあらじ

やすく待ちつつ今日も暮くらさむ

山家集上・春
西行さいぎやう

〔歌意〕

いまさらに咲くべき春の季節を忘れる桜の花もあるまい。のんびりと待ちながら、今日も過ごそう。

◆3月課題予告

君も舞へ我も歌はむ咲く花の
酔よめひを勧すすむる今日にやはあらぬ

〔解説〕

まず全体を見ると、右は、1行と1字。中は、上から下までの長い1行。左は、2行で構成しています。

余白はどうかというと、右上が一番大きく、左上はその半分程度。左下にもあるし、右と中の間にもあります。余白を捉えておくと、散らし書きの全体をよく把握できます。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「いまさらに者る」

〔越〕

「い」の2本の方向が同じにならないようにします。ゆったり進みながら、「に」では第1画を長くして第2画、第3画を少し下げて打ちます。

「越」は、どの位置に書いたら効果的か考えて書き添えます。

「わ須る、ハ那毛阿らし」

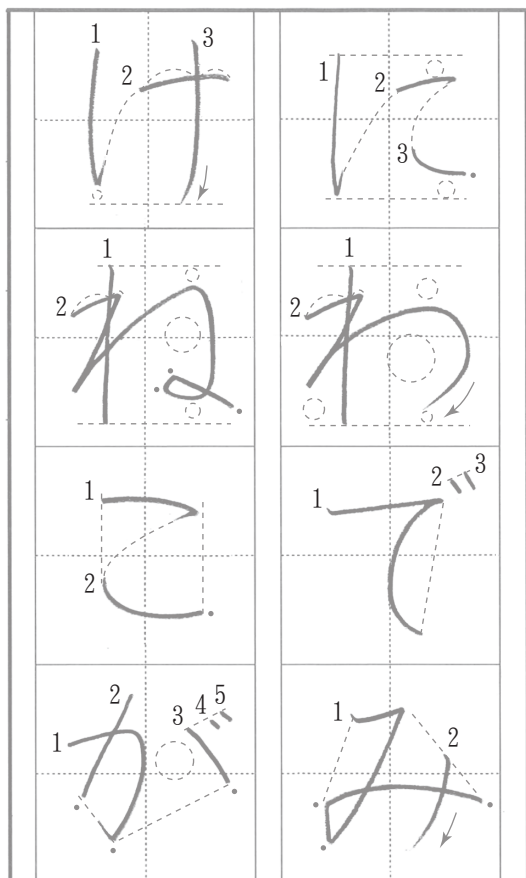
墨量が少し少なくなってきたて、下へ行く程どんどんなくなっていくます。息の長い渴筆は仮名の最たるものです。古筆の本物を見る機会があれば是非〈渴筆〉を確認してほしい。

「や春九万ちつ、今日も」

「くらさん」

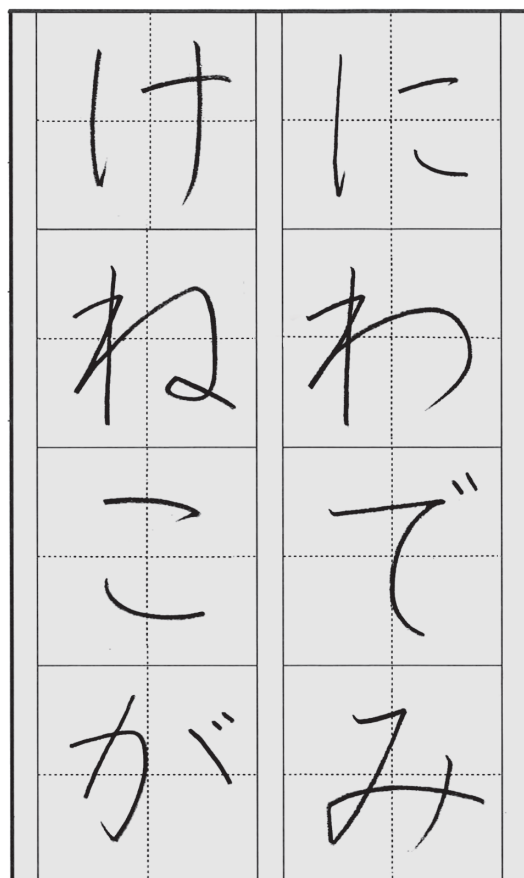
墨継ぎしてから最後まで、右全体をよく見ながら、全体のバランスを取り、「ん」で大きく動いて書き終えます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



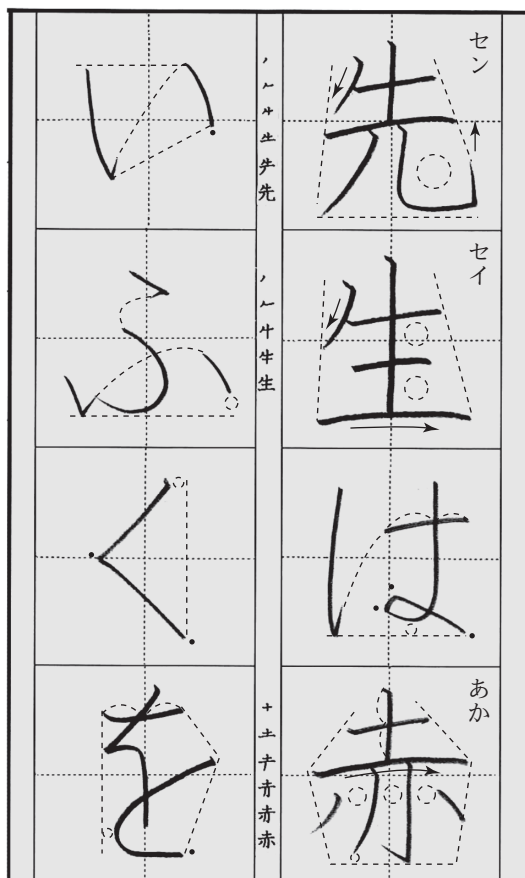
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

お	六
兄	年
さ	生
ん	の

新入1級

※お兄さん^{にい} 単語としてこのように読みます。

と	兄	六
あ	さ	年
そ	ん	生
ぶ	た	の
よ	ち	お

小二年

準初段以上

豆	福
ま	は
き	肉
を	と

新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

ま	福	大
き	は	き
を	内	な
す	と	声
る	豆	で

小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

イイイ竹竹竹竹	つく	ノハハ合合合	ガッ
り	シヨウ	キヨク	
す			

新入〜1級

を	く	卒
作	る	業
り	合	生
ま	唱	に
す	曲	お

小四年
準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

いとな(む)	ちち	父
ニ	あに	兄
ホン	フウ	夫
リヨウ	フ	婦

解説(よく見て習いましょう)

料	が	父
理	営	の
の	む	兄
お	日	夫
店	本	婦

小五年
(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具〉自由(黒色に限る)

地	宅
直	急
送	便
季	産

解説(よく見て習いましょう)

節	地	宅
の	直	急
果	送	便
物	の	で
が	季	産

小六年

(全員)

絵	浦	保
本	島	育
を	太	実
読	郎	習
む	の	で

中二・三年

(行書)

を	注	途
見	意	中
つ	の	で
け	標	落
た	識	石

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題

かん 野 しゅん こう
神 野 春 紅 書

お	お	絵	紙	せ
面	に	の	と	つ
を	の	ぐ	ハ	分
作		を	サ	は
る		使	ミ	
		い	と	

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 2月21日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

なる せ ゆう か
成 瀬 有 華 書

形	足	長	外	朝
が	あ	ぐ	は	目
く	と	つ	銀	覚
っ	も	の	世	め
き			界	る
り				と

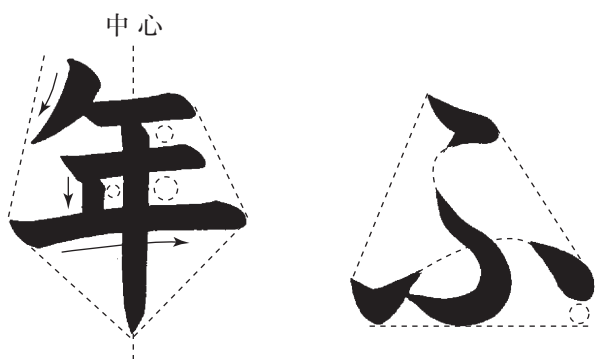
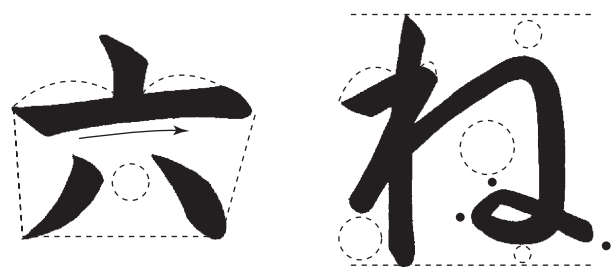
◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五
料日
理本

き豆
小三
ま

曲 豆
料 ま
理 作

小四
す作
る曲

小三〜小五年
水野碧友書

中二・三
太浦島
郎島

小六
直産
送地

小六／中二・三年

玉樹小華書

意浦島
直送注

中
注落石
意

※行書は気脈を大切にしよう。